

熊本県がん対策推進計画に基づく 取組み状況等

(令和7年度(2025年度)熊本県がん対策推進会議資料)

【熊本県がん対策推進計画に基づく取組み状況等】
～令和7年度（2025年度）熊本県がん対策推進会議資料～

P. 1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

P. 8 患者本位で持続可能ながん医療の提供

P. 18 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

P. 26 これらを支える基盤の整備

P. 28 感染症のまん延や災害等を見据えたがん対策

(1) がんの一次予防（がんにかからないようにする）

①生涯を通じた健康づくりの推進

○食生活や運動習慣の改善

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ 県民が健康食生活・食育に関する知識や技術を習得し実践するための指針として、「熊本県民食生活指針（第6次）」を令和6年11月に策定し、普及啓発を実施した。
- ・ 九州農政局、熊本市、県で連携し、各庁舎の啓発ブースに合同で出展し、健康食生活・食育に関する普及啓発（主食、主菜、副菜を揃えて食べる、野菜摂取量増加、減塩等）を6月に実施した。また、各保健所において、地域の関係者と連携し、スーパーマーケット等での普及啓発を実施した。
- ・ 食生活改善推進員連絡協議会と連携し、健康食生活・食育に関する普及啓発（主食、主菜、副菜を揃えて食べる、野菜摂取量増加、減塩、非常食備蓄推進等）を実施した。
- ・ 健康寿命を伸ばすための6つのアクション(運動、食生活、禁煙、健診・がん検診受診、歯と口腔ケア、休養)に取り組む「くまもとスマートライフプロジェクト」の普及を目的として、テレビ、新聞等による啓発を実施するとともに、同プロジェクト応援団の登録を促進し、登録数は2,648団体（令和7年12月9日時点）に増加した。
- ・ 日常生活での運動習慣の定着を図るため、くまもとスマートライフアプリ（歩数計アプリ）を使ったウォーキングキャンペーンを実施し、アプリ登録者は43,210人（令和7年11月末時点）に増加した。

【今後の予定】

- ・ 引き続き、関係機関・団体と連携し、あらゆる機会を活用し「熊本県民食生活指針」を推進するための食育活動を展開する。
- ・ また、広報やイベントの実施を通して、引き続き6つのアクションの重要性についての県民への周知及び運動習慣の定着を図る。

【参考資料】

くまもとスマートライフプロジェクト応援団数の推移

(単位:団体)

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
登録数	139	181	960	1,155	1,316	1,447	1,626	1,757	2,539	2,604	2,648

※R7は令和7年12月9日時点の数値

くまモン歩数計アプリ登録者の推移									(単位：人)
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
登録数	3,472	6,996	14,855	19,819	25,603	30,468	35,555	41,593	43,210

※R7 は令和7年11月末時点の数値

○禁煙支援や受動喫煙防止対策の推進

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界禁煙デー（5/31）と禁煙週間（5/31～6/6）に合わせ、県庁及び保健所においてたばこの害に関する展示を実施した。また、県ホームページにおいてたばこの害や禁煙外来等に関する情報提供を行った。 ・ 改正健康増進法の全面施行に伴う受動喫煙防止対策の周知のため、リーフレットの配布や各団体への説明、飲食店等の巡回、施設への助言・指導を行った。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、たばこの害に関する情報発信や健康増進法に基づく受動喫煙対策についての周知を行うとともに、施設からの相談等に対し、助言・指導を行う。

○飲酒による健康障害の発症・進行予防、20歳未満者の飲酒防止対策の推進

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <p>≪飲酒による健康障害の発症・進行予防≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本県アルコール健康障害対策推進計画に基づき、次のような取組を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> ①市町村や警察など関係機関と連携したポスター等の掲示や県庁地下展示スペースでの展示等による普及・啓発の実施 ②依存症の専門的な治療を行う依存症専門医療機関において、医療関係者や福祉関係者等を対象とした研修会を実施し、アルコール健康障害に対応できる人材を育成 ③精神保健福祉センターにおいて、依存症家族教室等の開催や専門相談員を活用した相談対応等を実施 ④各保健所で相談対応等を実施 <p>≪20歳未満者の飲酒防止対策≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年開催している健康教育担当者研修会において、文部科学省からの行政説明の復講を行い、飲酒を含む薬物乱用防止について周知を行った。ま

た、文部科学省から出されている飲酒・喫煙等に関わる参考資料の活用等の周知も行った。

- ・ 飲酒や喫煙を含む薬物乱用防止の学習において、体育科や保健体育科の授業で実施。さらに、学校によっては、外部講師を活用した薬物乱用防止教室等を実施し、指導内容の充実を図った。

【今後の予定】

《飲酒による健康障害の発症・進行予防》

- ・ 今後も関係機関と連携し、普及・啓発、研修会の実施、相談体制の充実等に継続して取り組む。

《20歳未満者の飲酒防止対策》

- ・ 引き続き、未成年者による飲酒に関する情報等について周知を図る。

②ウイルスや細菌感染に起因するがん予防対策

○感染予防に関する普及啓発

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ 子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）の定期接種・キャッチアップ接種について、県ホームページへの医師のアドバイス掲載や県公式SNSにより周知啓発を図った。また、県内の定期接種率の向上を目指すため、熊本市と連携し、県内市町村予防接種実務担当者・保健所担当者・県内教育関係者・関係保護者・県内医療関係者向けに、HPVワクチン研修会を実施した。

【今後の予定】

- ・ 引き続き、研修会の実施や県のホームページ・広報媒体を活用した情報提供を行う。

○HTLV-1母子感染対策の推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ 市町村や産科医療機関等に対し、県で作成した陽性妊婦向けリーフレットや相談対応者向けQ&Aの活用について周知を行うとともに、HTLV-1母子感染対策協議会を開催し、現状や課題について共有を行う予定（2月頃）。

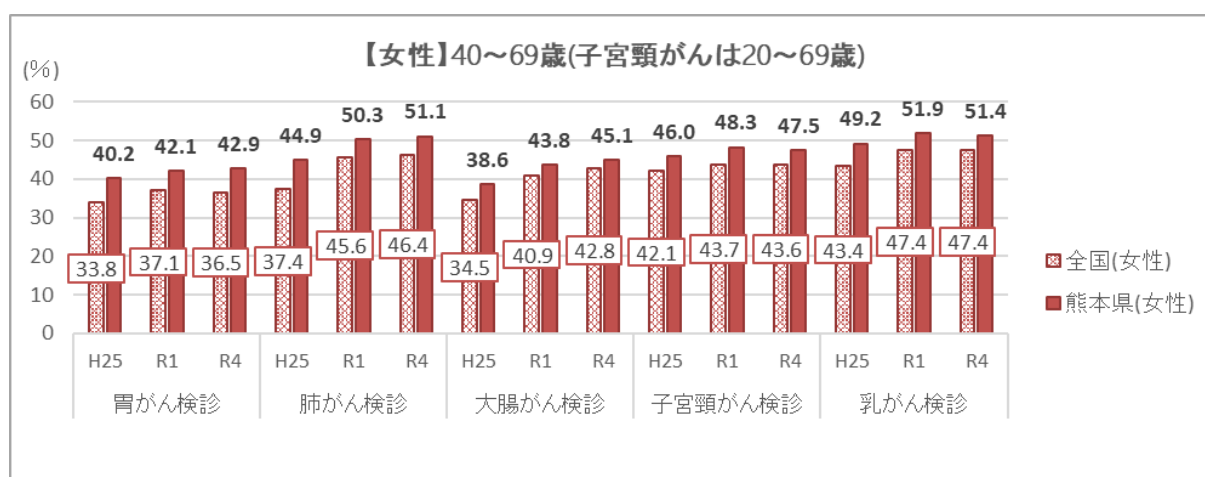
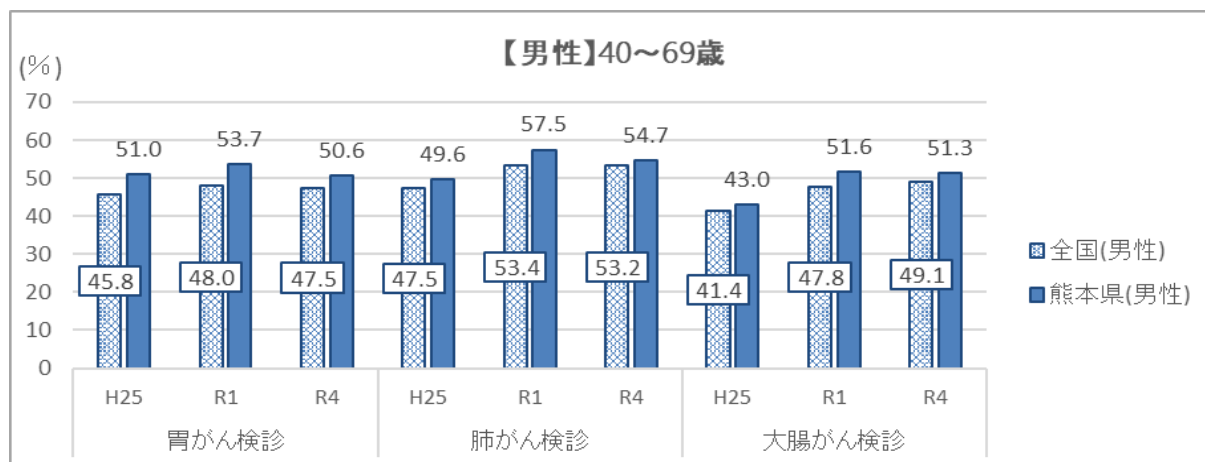
【今後の予定】

- ・ ホームページの充実などにより、関係機関への情報提供を行う。今後、国のマニュアル改訂等があれば、県作成Q&Aの内容見直し等を検討する。

(2) がんの二次予防（がんの早期発見、がん検診）

①がん検診の受診率向上対策

【がん検診受診率】



○がん検診の普及啓発の推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

《くまもとスマートライフプロジェクト、がん予防対策連携企業との連携によるがん検診の受診啓発》

- ・ 応援団の登録拡大やがん予防対策連携企業による普及啓発活動により、がん検診受診に係る情報について広く県民へ周知した。

《イベントでのがん検診受診啓発及びインターネットを活用した普及啓発》

- ・ がん検診受診啓発ポスターの県庁地下展示、テレビ媒体、健康づくり啓発特設ページを利用した動画配信等の受診啓発を実施した。

《各保健所の取組 チラシ配布、コーナー設置等》

- ・ がん検診受診率向上に向けた集中キャンペーン（10月）でのコーナー

設置等を実施した。

【今後の予定】

- ・ 今後もスマートライフプロジェクト応援団やがん予防対策連携企業との連携による働き盛り世代のがん検診受診勧奨等、様々な機会を捉え、がん検診受診啓発に取り組む。啓発方法についても、健康無関心層や働き盛りの比較的時間に余裕がない県民にも届きやすい媒体を検討し発信していく。

○受診しやすい検診体制の推進

令和7年度の取組実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ 特定健診とがん検診との同時実施を呼びかけたことで、45市町村全てが取り組みを継続している。

【今後の予定】

- ・ 引き続き市町村がん検診の実施予定について取りまとめを行い、各医療保険者へ情報提供を行う。

○検診未受診者への受診勧奨の促進

令和7年度の取組実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ テレビやSNS、健康づくり関係ホームページを活用した動画配信等の受診啓発を行った。また、市町村、検診機関等と連携し、受診啓発に関する情報共有・検討等を行った。

【今後の予定】

- ・ 引き続き、あらゆる機会を活用して県民への啓発を行うとともに、市町村や検診機関等を対象としたがん検診担当者研修会の実施や検討に取り組む。

②がん検診の精度管理等

○がん検診精密検査の受診率及び精度管理の向上

令和7年度の取組実績及び今後の予定

【取組実績】

≪「事業評価のためのがん検診チェックリスト」の活用≫

- ・ 県、市町村、検診機関において、「事業評価のためのがん検診チェックリスト」を活用した精度管理調査を実施した。生活習慣病検診等管理指導部会で評価検討を行い、ホームページでの公表及び市町村・検診機関へのフィードバックを実施する。

《精密検査受診率の推移》

男女合計・全年齢 単位 (%)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
胃がん	83.4	82.8	83.1	81.9	80.1	82.4	83.2	82.9
肺がん	85.1	79.6	84.2	80.1	75.5	82.1	83.2	81.5
大腸がん	78.2	73.9	78.0	79.2	78.6	75.4	75.4	75.4
子宮頸がん	77.5	74.1	82.8	85.1	85.8	86.1	87.8	87.0
乳がん	91.7	90.3	91.3	91.8	92.2	87.4	91.0	92.2

《生活習慣病検診等管理指導部会開催》

- ・ がんによる死亡を減らすためのがん検診の3本柱（有効な検診、高い受診率、精度管理）の一つであるがん検診の精度管理を図るうえで、がん検診の評価等を行った。

委員構成： 熊本県医師会、熊本県がん検診従事者（機関）認定協議会各部会（乳がん部会、子宮がん部会、胃がん・大腸がん部会、肺がん部会）及び事務局、がん診療連携協議会がん診断部会、放射線技師会、集団検診機関連絡会、熊本市、町村会、保健所長会

《がん検診従事者（機関）認定協議会 各がん部会の開催》

- ・ 熊本県医師会にて、各がん部会を開催、部会ごとに年1回研修会を開催した。

《効果的ながん検診を実施するためのデータ収集・分析》

- ・ 「がん検診データ集」を作成し、県ホームページに掲載する。県全体及び市町村ごとのがん検診の状況や課題の共有を行った。

【今後の予定】

- ・ 引き続き、がん検診データ収集・分析を行うとともに、がん検診従事者（機関）認定協議会と連携して、「事業評価のためのチェックリスト」を活用した精度管理調査の実施や管理指導部会を開催し、市町村や検診機関への精度管理向上への働きかけを行う。

③職域におけるがん検診について

○職域と連携した受診勧奨と精度管理の促進

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ がん予防対策に取り組む企業・団体と連携して、企業等の活動を支援することで、従業員やその家族の検診受診の促進、ひいては県民の健康づく

りの推進を図った。令和7年1月末の登録数は28企業・団体。

- ・ 名義後援、活動に関する相談等を行い、企業との活動を支援した。

【今後の予定】

- ・ 同様の取組を今後も継続していく。

④ウイルス検査の受検率向上と陽性者への対応

○陽性者の受診等の確実な実施

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ ウイルス検査陽性者やC型肝炎の治療終了者に対し、県公式 SNS 等を活用して受検勧奨・受診勧奨等のフォローアップを行った。また、県内の市町村、保健所及び医療機関に対し、ウイルス検査で陽性だった方に、県の初回精密検査事業の対象となる旨の説明とチラシの配布を依頼した。

【今後の予定】

- ・ 引き続き、ウイルス検査・精密検査の受検促進や陽性者が確実に治療に繋がるよう効果的な啓発方法の検討を行い、実施する。

(1) 診療機能の維持・向上

①がん医療提供体制

○がん診療連携拠点病院の維持・向上

令和7年度取組実績及び今後の予定

【取組実績】

≪国指定がん診療連携拠点病院≫

- ・ 令和7年度は、国指定がん診療連携拠点病院全7病院で更新は無し。現況報告書にて全7病院の指定要件の充足状況を確認し、がん診療連携拠点病院推薦検討委員会にて報告し、厚生労働省に現況報告書を提出した。

≪熊本県指定がん診療連携拠点病院≫

- ・ 県指定拠点病院のうち更新対象となっていた熊本南病院について、提出された現況報告書にて指定要件の充足を確認し、がん診療連携拠点病院推薦検討委員会において承認されたため、指定を更新する予定。
なお、その他の県指定がん診療連携拠点病院13病院においても、指定要件の充足が確認され、がん診療連携拠点病院推薦検討委員会にて報告した。

≪がん診療施設の施設・設備整備≫

- ・ 令和7年度は、施設整備1施設、設備整備11施設に補助金を交付予定。

【今後の予定】

- ・ 県指定がん診療連携拠点病院については、令和8年3月中に指定更新通知を発出する予定。同様の取組を今後も継続していく。

【参考資料】

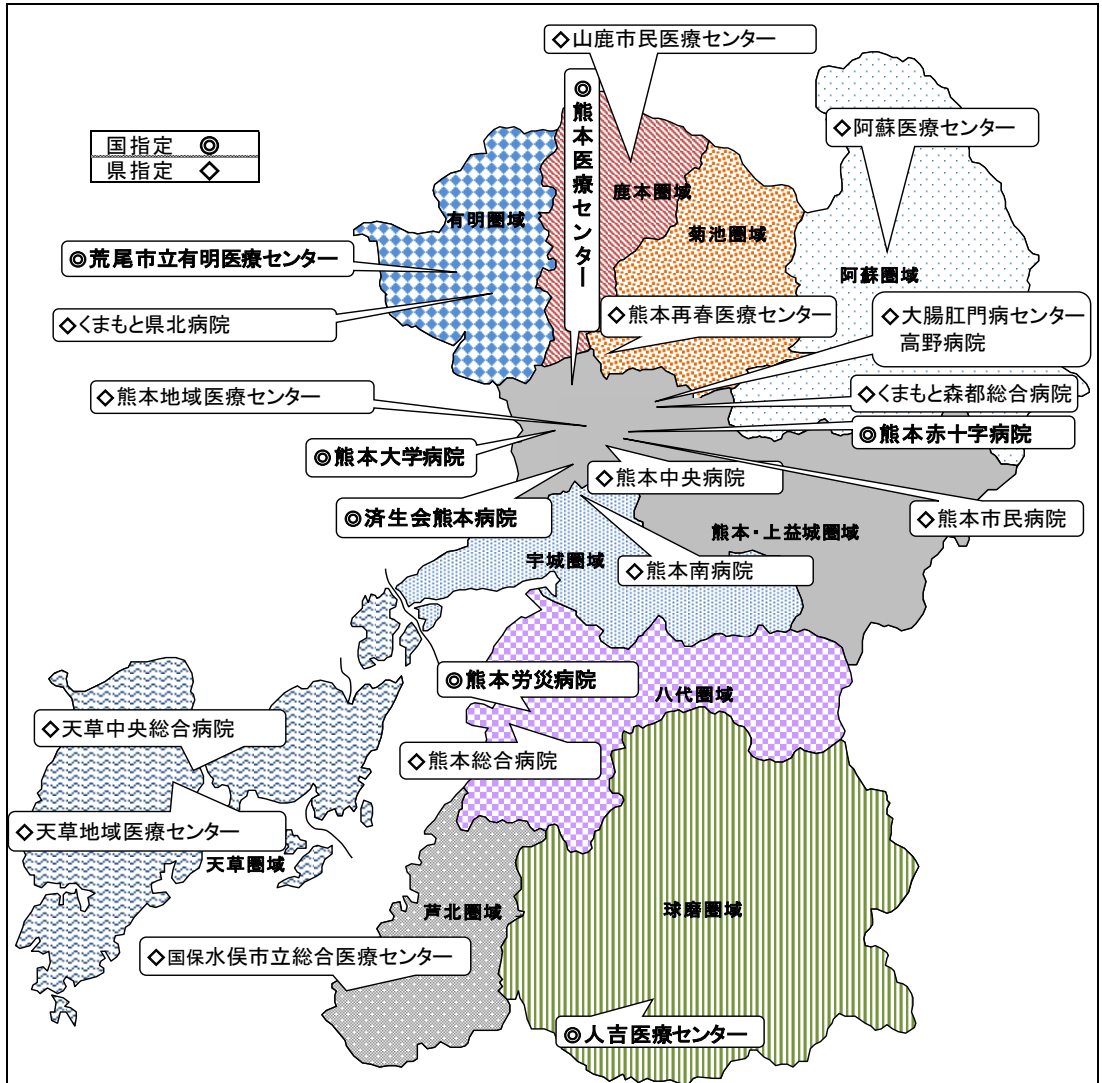
《国指定がん診療連携拠点病院》

病 院 名	担当医療圏	更新・継続
＜都道府県がん診療連携拠点病院＞		
①国立大学法人熊本大学病院	全域	継続
＜地域がん診療連携拠点病院＞		
②熊本赤十字病院	熊本、菊池、阿蘇	継続
③独立行政法人国立病院機構 熊本医療センター	熊本、鹿本	継続
④社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本、宇城	継続
⑤荒尾市立有明医療センター	有明	継続
⑥独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院	八代	継続
⑦独立行政法人地域医療機能推進機構 人吉医療センター	球磨	継続

《熊本県指定がん診療連携拠点病院》

病 院 名	担当医療圏
①国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院	熊本
②独立行政法人国立病院機構 熊本再春医療センター	菊池
③独立行政法人地域医療機能推進機構 熊本総合病院	八代
④国保水俣市立総合医療センター	芦北
⑤一般社団法人天草郡市医師会立 天草地域医療センター	天草
⑥独立行政法人地域医療機能推進機構 天草中央総合病院	天草
⑦一般社団法人熊本市医師会 熊本地域医療センター	熊本
⑧医療法人創起会 くまもと森都総合病院	熊本
⑨社会医療法人社団高野会 大腸肛門病センター高野病院	熊本
⑩山鹿市民医療センター	鹿本
⑪独立行政法人国立病院機構 熊本南病院	宇城
⑫阿蘇医療センター	阿蘇
⑬熊本市立熊本市民病院	熊本
⑭地方独立行政法人 くまもと県北病院	有明

《熊本県内のがん診療連携拠点病院配置図》



がん診療連携拠点病院一覧

国指定がん診療連携拠点病院	熊本県指定がん診療連携拠点病院
国立大学法人熊本大学 熊本大学病院	国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院
独立行政法人国立病院機構 熊本医療センター	独立行政法人国立病院機構 熊本再春医療センター
独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院	独立行政法人地域医療機能推進機構 熊本総合病院
荒尾市立有明医療センター	国保水俣市立総合医療センター
独立行政法人地域医療機能推進機構 人吉医療センター	一般社団法人天草郡市医師会立 天草地域医療センター
日本赤十字社熊本県支部 熊本赤十字病院	独立行政法人地域医療機能推進機構 天草中央総合病院
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	一般社団法人熊本市医師会 熊本地域医療センター
	医療法人創起会 くまもと森都総合病院
	社会医療法人社団高野会 大腸肛門病センター高野病院
	山鹿市立山鹿市民医療センター
	独立行政法人国立病院機構 熊本南病院
	阿蘇市立阿蘇医療センター
	熊本市立熊本市市民病院
	地方独立行政法人 くまもと県北病院

②がんの治療法（手術療法、放射線療法、薬物療法等）、チーム医療、病理診断、がんのリハビリテーション）

○がんの治療法の周知・啓発、医療連携体制の推進

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none">・ がん治療法の最新情報等に関する県民公開講座を開催し、県民に対するがんの周知・啓発を行った。 令和7年12月14日（日） テーマ：がんと共に生きる社会を作る ～がんになって思うこと、知ってほしいこと～ 主 催：熊本県がん診療連携協議会幹事会、相談支援・情報連携部会・ 熊本県薬剤師会と連携し、在宅医療研修会、健康サポート薬局研修会、無菌調剤に関する研修会、かかりつけ薬剤師に関連する研修会等を実施し、在宅医療の現場等で服薬情報の一元的・継続的な把握とそれに基づく適切な薬学的管理を提供できる人材の育成を行った。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none">・ がん診療連携協議会、薬剤師会等関係団体と連携し、同様の取組を今後も継続していく。

○チーム医療の促進

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 令和7年度現況報告書によって、全ての国指定及び県指定がん診療連携拠点病院において、がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう必要に応じて定期的にカンファレンスを開催していることを確認した。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 引き続き、カンファレンスに基づくがん患者へのチーム医療の実施状況の把握を継続していく。

○病理診断体制の充実

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none">・ がん診療連携協議会がん診断部会による研修会の開催等により、県内の病理診断に係る専門的な知識を有する医師（病理専門医）の育成が進められた。なお、令和7年10月時点での県内の病理専門医の数は35名である。 <p>【今後の予定】</p>

- ・ 同様の取組を今後も継続していく。

○がんのリハビリテーション体制の充実

令和7年度の取組実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ リハビリテーション科専門医が配置されている拠点病院は令和7年9月現在17施設である。熊本県がん診療連携協議会PDCAサイクル推進ワーキンググループの7施設がグループ内でがんのリハビリテーション体制の充実について、相互評価を実施した。

【今後の予定】

- ・ 熊本県がん診療連携協議会と連携して、リハビリテーションに関する研修を受講した医師や看護師ほか医療従事者の拠点病院等への配置を支援し、がんのリハビリテーション体制の充実を図る。

① がんと診断された時からの緩和ケア

○緩和ケアの提供体制の充実

令和7年度の取組実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ 熊本大学病院への補助事業として、熊本大学病院緩和ケアセンターを中心とした拠点病院等の緩和ケアに携わる医療従事者の教育及び地域緩和ケア連携調整体制の整備等に要する費用を助成する緩和ケア提供体制発展事業を実施した。主な内容は以下のとおり。

- ① 緩和医療に携わる多施設、多職種による協議会の運用
- ② 「熊本県緩和ケアチーム研修会」、「くまもと緩和ケア Web ラウンジ」及び「熊本県栄養士のための緩和ケア研修会」等の開催による、人材育成・医療者間のネットワーク・組織づくりの推進
- ③ 緩和ケアとアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の普及啓発を目的とした県民公開講座の実施
- ④ 多施設・多職種の情報交換を推進するため、他施設との情報交換やカンファレンス等による人材交流の実施

【今後の予定】

- ・ 引き続き、熊本大学病院緩和ケアセンターと連携し、県内における緩和医療を担う多施設・多職種の連携体制の強化に取り組む。

○緩和ケアの普及・啓発の推進

令和7年度の取組実績及び今後の予定

【取組実績】

緩和ケア提供体制発展事業により、以下の取組を実施した。

- ・ パネル展や新聞広告等を活用した緩和ケアの普及啓発
- ・ 緩和ケアとアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の普及啓発を目的とした県民公開講座の実施
- ・ 県内の緩和ケアに携わる医療従事者を対象とした、「熊本緩和ケアカンファレンス」について、介護・福祉関係者の参加を広げるため、高齢者支援課が発信するメールマガジンやホームページを活用した周知を行い、令和7年11月時点で、7回実施、参加者は延べ487人であった。

<テーマ> ※一部のみ

- ・「みんなで考えよう『人生会議』 ～あなたとあなたの大切な方のために～」
- ・「心理職とともに考える緩和ケア」
- ・「チーム医療を自らに問い直す ～『患者中心』と言いながら～」 等

【今後の予定】

- ・ 同様の取組を今後も継続していく。

○在宅緩和ケアの推進

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全てのがん診療連携拠点病院において、がん患者の退院時において、地域の在宅診療に携わる医師や訪問看護師等との退院前カンファレンスが実施されていることを確認した。 ・ 国指定拠点病院においては、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者と情報を共有し、役割分担や支援等について検討する場を年1回以上設けていることを確認した。 ・ 県ホームページにて、在宅緩和ケアを行っている医療機関を検索することができる「熊本県在宅緩和ケアマップ」を周知し、活用促進を図った。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同様の取組を今後も継続していく。

○医療従事者に対する研修会等への受講勧奨の促進

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本県がん診療連携協議会緩和ケア部会において、各拠点病院の緩和ケア研修会修了者数及び受講率について報告するとともに、医師以外の医療従事者の受講勧奨の促進を行った。

《修了者数の推移》												(単位：人)
年度	H21～ H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
医師	1,237	301	210	159	157	59	174	153	144	149	72	2,815
その他	1,416	185	176	151	132	28	84	117	172	163	39	2,663
計	2,653	486	386	310	289	87	258	270	316	312	111	5,478

※R7年度の数值は、R7.9.14時点

《受講率》

「1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師」のうち、緩和ケア研修会を受講した医師の割合。

- ・国指定拠点病院：85.2%（令和7年9月1日時点）
- ・県指定拠点病院：84.9%（令和7年9月1日時点）

【今後の予定】

- ・引き続き、同様の取組を今後も継続していく。

○緩和ケア研修会を受講しやすい体制の推進

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本県がん診療連携協議会緩和ケア部会で、e-ラーニング等の活用や施設間での合同開催を提案し、緩和ケア研修会を受講しやすい体制の推進を図った。 ・令和7年度は、緩和ケアカンファレンス12回、緩和ケア研修会15回が開催予定である。 <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も同様にe-ラーニング等を活用し、多業種の医療従事者が緩和ケア研修会を受講しやすい体制を推進する。

④妊よう性温存療法

○妊よう性温存療法及び助成制度の周知・啓発の推進

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15歳～39歳のAYA世代（思春期・若年成人）のがん患者の経済的負担を軽減するとともに、患者が将来に希望をもってがん治療に取り組めることを目的に、令和2年度から「熊本県がん患者妊よう性温存治療費助成事業」を実施しているが、申請件数が増加傾向にある（R4年14件、R5年17件、R6年32件、R7年17件（R7年12月2日現在））

【今後の予定】

- ・ 今後も指定医療機関やがん診療連携拠点病院等と連携し、県民に対する妊よう性温存に係る周知啓発に取り組む。

○がん・生殖医療ネットワークと情報・相談支援体制の強化

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ がんの治療が妊よう性に悪影響を及ぼす可能性のある症例について、治療前の把握及び適切な情報提供や地域とのネットワーク構築を行うため、平成28年4月に「生殖医療・がん連携センター」が熊本大学病院に設置。センターでは、妊よう性温存治療に関するカウンセリング、治療可能な施設の紹介、胚（受精卵）、未受精卵子、卵巣組織、精子等の凍結保存と長期管理が行われている。

熊本大学病院 生殖医療・がん連携センターの相談者数（人）

	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
相談件数	17	30	19	28	20	32	21
	男性 10 女性 7	男性 15 女性 15	男性 6 女性 13	男性 12 女性 16	男性 4 女性 16	男性 10 女性 22	男性 12 女性 9
紹介元	院内 15 院外 2	院内 23 院外 7	院内 16 院外 3	院内 21 院外 7	院内 17 院外 3	院内 22 院外 10	院内 20 院外 1
精子凍結	9	11	2	6	1	7	5
卵子凍結	4	4	0	2	7	8	0
胚凍結	1	2	3	7	1	2	2

	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
凍結した精子を用いた生殖補助医療	0	1	0	0	0	0	1
未受精卵子を用いた生殖補助医療	0	0	0	0	1	0	0

胚を用いた生殖補助医療	0	1	0	1	3	1	3
-------------	---	---	---	---	---	---	---

【今後の予定】

- 引き続き、がん・生殖医療の均てん化のため、生殖医療・がん連携センターと指定医療機関、がん診療連携拠点病院等との連携による、がん・生殖医療ネットワーク、情報・相談支援体制の強化を行う。

(2) 医科歯科連携の推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- がん治療における口腔内合併症の発生を抑え、患者の療養生活の質の維持向上を図るため、県歯科医師会に委託し、医科歯科連携体制の充実強化を図る協議会開催や拠点病院、歯科医師及び歯科衛生士等への研修会を実施した。

【今後の予定】

- 引き続き、関係機関・団体と連携し協議会やがん診療の医科歯科連携に携わる人材育成を継続し、医科歯科連携の強化を進める。

(3) 高齢者のがん対策

○意思決定支援の体制整備と地域との連携体制の整備

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- 全てのがん診療連携拠点病院で、高齢者のがん患者が適切な意思決定に基づき治療等を受けられるよう、患者本人やその家族等の意思決定支援の体制が確保されていることを確認した。
- 介護施設に入居する高齢者のがんと診断された場合、介護施設等と治療・緩和ケア・看取り等における連携体制が確保されていることを確認した。

【今後の予定】

- 同様の取組を今後も継続していく。

○ガイドラインを踏まえた治療及びケアの提供の推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- 全てのがん診療連携拠点病院で、高齢者のがんに関し、併存症の治療と

の両立を図るため、関係科と連携体制が確保されていることを確認した。

- ・ 高齢者のがん患者の意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしていることを確認した。

【今後の予定】

- ・ 同様の取組を今後も継続していく。

(1) 相談支援

①がん相談支援センター

○がん相談支援体制の強化

令和7年度の取組実績及び今後の予定						
【取組実績】						
≪がん相談支援センターの相談件数≫						
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
相談件数	-	14,923	15,197	15,214	18,640	20,693
※令和元年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で現況報告の提出無し。						
≪熊本県がん連携サポートセンター≫						
<ul style="list-style-type: none"> 熊本大学病院内に設置(事業推進員3名、事務職員2名の計5名を配置)。「がん専門相談員ワーキンググループ」(以下、「がん相談WG」という。)と連携し、主に以下の取組を実施している。 <ol style="list-style-type: none"> ① 県内がん相談員及び「私のカルテ」担当者の資質向上(研修会等の実施) ② がん相談支援センター、「私のカルテ」の普及啓発活動(熊本県版がん情報冊子の作成等) ③ がんサロンネットワーク熊本・ピアサポート活動との連携(がんサロンネットワーク熊本の支援等) ④ がん地域連携クリティカルパス「私のカルテ」の運用改定(見直し・電子化に向けた検討) 						
≪がん相談支援センターの広報・周知≫						
<ul style="list-style-type: none"> 4月に、がん相談WGと連携し、熊本県版がん情報冊子(2025年版)を作成し、がん診療連携拠点病院等に配布した。 						
≪県内各所における出張がん相談等の実施≫						
<ul style="list-style-type: none"> より多くの県民に対して「がん」や「がん相談支援センター」を周知するために、県内各地で個別相談等を実施した。 						
【今後の予定】						
<ul style="list-style-type: none"> 同様の取組を今後も継続していく。 						

○がん専門相談員の更なる資質向上の推進

令和7年度の取組実績及び今後の予定						
【取組実績】						
<ul style="list-style-type: none"> 県内がん相談員(拠点病院以外の相談員を含む)への研修、拠点病院のがん専門相談員への研修を実施し、がん相談員の課題等の共有を行った。 						

令和7年度は1回（8月）実施。

【今後の予定】

- ・ 同様の取組を今後も継続していく。

○認定がん医療ネットワークナビゲーターとの連携の推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ 一般社団法人日本癌治療学会は、拠点病院のがん相談支援業務を補完することを目的に、認定がん医療ネットワークナビゲーター制度に取り組んでおり、本県では、令和7年10月時点で19名が認定されている（認定がん医療ネットワークシニアナビゲーター含む）。

【今後の予定】

- ・ 同様の取組を継続し、認定がん医療ネットワークナビゲーターと地域開催のがんサロンや相談会等での協働・連携を推進していく。

○地域との連携の推進

令和7年度の実績及び今後の予定

- ・ 誰もが住み慣れた地域で安心してがん医療を受けることができる体制を整備するため、「私のカルテ」の利便性向上に向け見直しを行っている。
- ・ 「私のカルテ」の情報をがん連携サポートセンターのホームページ上に公開し、県民に対して広く「私のカルテ」の内容について情報提供を行った。

【今後の予定】

- ・ 引き続き、地域との連携を推進していく。

② がんサロンの普及・定着とピアサポートの充実

○がんサロン活動への支援

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ がん診療連携協議会相談支援・情報連携部会と連携し、がんサロンの運営支援を実施した。また、がん連携サポートセンターのスタッフを通じて、がんサロンネットワーク熊本の事務局の支援等を行った。

【今後の予定】

- ・ 同様の取組を今後も継続していく。

○ピアサポートの充実・質の向上

令和7年度の実績及び今後の予定

《がんピアおしゃべり相談室の実施》

- ・ 平成24年度から、がん患者等が不安や迷いなどの気持ちを整理するきっかけの場として、がん経験者による傾聴を主体とした「がんピアおしゃべり相談室」を実施している。現在のピアサポーター登録は8名。
- ・ これまで、県内3医療機関（熊本赤十字病院、熊本医療センター及び熊本大学病院）で実施していたが、令和7年1月から新たに済生会熊本病院でも開始した。

《がんピアサポーター研修の実施》

- ・ ピアサポートに対する正しい理解を深め、実践力を養成することによって、県内がんサロンの普及・定着を促すとともに、がん患者等の交流を促している。令和7年7月にピアサポーター養成研修及びフォローアップ研修を実施した。

【今後の予定】

- ・ 同様の取組を今後も継続していく。

【参考資料】

がんピアおしゃべり相談室（個別面談・無料、予約優先）実施病院

・熊本赤十字病院 がん相談支援センター内 相談日：毎月第1・3金曜日（11時～12時30分）
・独立行政法人国立病院機構熊本医療センター がん相談支援センター内 相談日：毎月第2火曜日（11時～13時）
・熊本大学病院 がん相談支援センター内 相談日：毎月第3木曜日（13時～15時）
・済生会熊本病院 がん相談支援センター内 相談日：毎月第2木曜日（10時～12時）

がんピアおしゃべり相談室実施状況（平成24年1月～）

利用件数 総計 539 件（令和7年度 41 件 ※令和7年11月末時点）

実施病院	H24～ H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	総計
熊本赤十字病院	125	33	65	49	42	—	—	—	3	7	16	340
熊本医療センター	15	8	13	10	17	—	2	1	11	10	8	95
熊本市民病院	18											18
熊大病院				10	13	1	1	2	7	3	8	45
済生会熊本病院										3	8	11
駅前（森都心プラザ図書館）						—	9	7	1			17
出張おしゃべり相談室								1	7	4	1	13
合計	158	41	78	69	72	1	12	11	29	27	41	539

※熊本市民病院は熊本地震の影響により平成28年度から未開催。

※「-」は新型コロナウイルス感染症流行の影響で実施無し、または中止。

(2) 「私のカルテ」による地域との連携

○ 「私のカルテ」等の活用の推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ がん診療連携協議会相談支援・情報連携部会と連携し、「私のカルテ」、「私の日記」等の情報発信、技術的助言、相談対応、意見交換等を実施した。
- ・ くまもとメディカルネットワークを活用した「私のカルテ」の電子化について検討を進めるとともに、「私のノート」と「私のメッセージ」を統合した新たな「私の日記」を配布した。

【今後の予定】

- ・ 引き続き、がん診療連携協議会相談支援・情報連携部会と連携し、「私のカルテ」、「私の日記」の普及啓発や相談対応を行う。

【参考資料】

「私のカルテ」の年間導入件数

※年間導入件数は4月～翌年3月導入分

がん種	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
胃	167	142	134	85	80	63	52	63	47
大腸	167	222	258	221	222	155	190	198	103
肺	40	38	26	34	51	59	53	40	14
乳	156	199	251	230	166	131	111	150	60
肝臓	19	14	6	6	9	2	10	7	5
前立腺	156	157	180	168	213	168	175	150	95
婦人科	76	61	73	68	116	41	3	0	0
その他	9	10	7	7	4	3	6	2	5
計	790	843	935	819	861	622	600	610	329
算定件数	487	577	688	557	601	471	509	542	314

※令和7年度は、令和7年11月分まで集計

(3) がん患者等の就労を含めた社会的な問題**①就労支援**

○がん患者への就労支援体制の推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ がん患者の早期離職防止のための「がん患者等就労支援リーフレット」を、拠点病院を中心に、がんサロンや熊本県産業保健総合支援センター、ハローワーク等へ配布した。

【今後の予定】

- ・ 引き続き、リーフレット等を活用した周知を継続するとともに、拠点病

院に対しては、がんの診断時等、できる限り早期にがん患者の手元に届くよう配慮を呼びかけていく。

【参考資料】

【2024 年度版がん患者等就労支援リーフレット】

がんを診断されても、すぐに仕事を辞めないで!

がんを診断された時に働いていた方の約82%は、仕事を継続・復帰しています! 「仕事を辞める」と決めてしまう前に、一度立ち止まって考えてみませんか?

- まず治療について理解しましょう!**
 - 治療にどれくらい、時間がかかるのか?
 - これから受ける治療の副作用が、就労に与える影響は?
- 利用できる公的制度を確認しましょう!**
 - 高額療養費制度(治療費の支援) 療養費適用認定証を申請することで、医療費の窓口負担を限度額まで抑えられます。
 - 傷病手当金(収入の支援) 職場を休んだときに、療養中の生活保護として支給される制度です。
- 労働者としての権利を知っていますか?**
 - 就業規則 労働契約や、休職期間中の給与の条件など、確認してみましょう。
 - 健康保険上の制度 この加入の健康保険独自の高額療養費制度や傷病手当の付加給付制度が認められている場合があります。
- 職場に相談してみましょう!**
 - 現在の状態、当面の治療スケジュール
 - 必要に応じて職場(産業医等)と医療機関の連携も可能です。
 - 仕事に関するご自身の希望
 - 職場で利用可能な福利厚生制度

熊本県・がん患者等就労支援ネットワーク協議

「がん相談支援センター」がある病院
がんに関する治療や医療費(公的助成)などの経済的なこと、お仕事に関することなど、がんに関する全般的な相談ができます。

熊本大学病院	096-273-0676	玉名市	くまもと県立病院	0968-73-0000
熊本県がんセンター	096-263-0311	日南市	日南市がん相談支援センター	0968-44-2188
熊立病院がん相談支援センター	096-263-6001	宇城市	熊立病院がん相談支援センター	0964-32-0826
大熊野病院がん相談支援センター	096-200-6000	八代市	熊本労務センター	0965-30-4154
くまもと労働福祉センター	096-304-0000		熊本総合病院	0965-32-7111
熊本赤十字病院	096-304-2111	玉名市	大野病院がん相談支援センター	0969-24-4111
済生会熊本病院	096-241-0275		玉名市中野病院	0969-22-0041
熊本大学病院	096-270-3111	八代市	八代労務センター	0965-22-2193
熊本中央病院	096-325-4711	熊本市	熊本市総合がん相談支援センター	0965-62-2101
自治市 熊立病院がん相談支援センター	096-242-0000	熊本市	熊本市がん相談支援センター	0967-24-0011
寛城市 寛城中央病院がん相談支援センター	0968-62-1115			

ハローワーク(公共職業安定所)
就職や転職等、求職に関する相談ができます。

熊本	096-371-0000	玉名	0969-22-9000
上益城(山形町)	096-282-0077	熊野	0966-24-8000
八代	0965-31-8800	宇城	0964-32-8800
豊後	0968-24-8800	熊野	0967-22-8800
玉名	0968-72-8800	本庄	0966-62-8800

熊本産業保健総合支援センター
治療と仕事の両立支援に関する相談ができます。また、県内では、7ヵ所に地域産業保健センターが設置されています。
熊本産業保健総合支援センター 096-353-5480

総合労働相談所(熊本県社会保険労務士会)
労働時間、休日、休暇など、労働問題全般に関する相談ができます。
※毎月第1・第3木曜日13:30~16:30(祝祭日除く)
総合労働相談所 096-324-1365

がんサロン・がんピアおしゃべり相談室
がん患者の方やそのご家族とお話することができます。会話することで不安の緩和につながるかもしれません。県内には約30ヵ所のがんサロンがあります。

がんサロンに関するお問合せ先	096-373-5558
熊本県がん相談支援センター(熊本大学病院)	

がん相談者(ピアサポーター)による「がんピアおしゃべり相談室」は以下の診療時間でお話します。
※お話し合いは1日1回、各機関のがん相談支援センターで受け付けています。

◆熊本赤十字病院 ◆熊立病院がん相談支援センター ◆熊本大学病院 ◆済生会熊本病院

<お問い合わせ先> 熊本県健康福祉部健康づくり推進課 がん対策課 ☎096-333-2208

(表)
(裏)

○関係団体との連携による就労支援体制の充実

令和7年度の取組実績及び今後の予定

【取組実績】

- 熊本労働局主催の熊本県地域両立支援推進チーム会議や熊本県長期療養者就職支援担当者連絡協議会にて、関係機関との円滑な連携による就職支援について、意見交換を行った。

【今後の予定】

- 同様の取組を今後も継続していく。

②アピアランスケア

○アピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築及び支援策の検討

令和7年度の取組実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ 治療を継続しながら社会生活を送る患者の経済的・心理的負担を軽減するため、がんの治療による外見の変化を補うためのウィッグや乳房補整具等の購入費を助成する市町村に対する補助事業を令和6年度から開始し、36市町村への助成を予定。

【今後の予定】

- ・ 助成に取り組む市町村が広がるよう、助成制度の周知を継続していく。

③その他の社会的な問題について

○がん患者の自殺防止対策の推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【実績】

- ・ 電話相談窓口（熊本県こころの悩み電話相談）を設置し、相談整備体制の充実を図った。また、自殺予防週間や自殺対策強化月間に合わせてラジオや新聞等の媒体を活用し、自殺を未然に防ぐための普及啓発を行った。

【今後の予定】

- ・ 同様の取組を今後も継続していく。

○がんに関する正しい知識の普及啓発の推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【実績】

- ・ イベントでのがん検診受診啓発や、インターネットを活用したがん検診受診啓発、県民全体に対する正しい知識の普及啓発を目的とした県民公開講座を通じたがんに関する正しい知識の普及啓発に取り組んだ。

【今後の予定】

- ・ 今後も様々な機会を捉え、がんに関する正しい知識の普及啓発に取り組む。

(4) ライフステージ（小児、AYA世代、高齢者）に応じたがん対策

○小児がんの診療体制及び長期フォローアップの推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【実績】

- ・ 令和4年8月1日に「小児がん拠点病院等の整備に関する指針」が改定され、令和6年9月1日現在、国内では15の小児がん拠点病院が指定されている。九州・沖縄ブロックでは、九州大学病院が小児がん拠点病院に指定され、本県では、熊本大学病院と熊本医療センターが九州大学病院の連携病院となっている。

【今後の予定】

- ・引き続き、熊本大学病院及び熊本医療センターと連携して、小児がんの診療体制及び長期フォローアップの推進を進めるとともに、がん情報冊子等を活用した啓発を継続する。

○AYA世代のがんに対する情報提供・連携体制の強化

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・妊よう性温存治療については、今年度から補助金制度により助成を行うこととなり、これまでの実施要領を廃止し、補助金交付要領を制定した。併せて厚労省が定める交付要綱が改正され、様式等の変更があった。がん診療連携拠点病院や指定医療機関に通知するとともに、県ホームページ上でも情報を発信した。
- ・生殖医療・がん連携センターにおいても、がんの治療に伴う妊よう性に対する影響について相談窓口を設けており、妊よう性温存治療を含む生殖医療に関する相談対応を行った。
- ・医師が一般に認められている医学的知見に基づき回復の見込みがない状態と判断した若年がん患者（18歳から40歳未満）に対し、在宅療養にかかる費用の一部を助成する市町村に対する補助事業を令和6年度から開始し、現在17市町村が助成制度を新たに設けた。

【今後の予定】

- ・引き続き、指定医療機関やがん診療連携拠点病院等と連携し、県民に対する妊よう性温存に係る周知啓発を継続するとともに、在宅療養費用への助成に取り組む市町村が広がるよう、助成制度の周知に取り組んでいく。

○高齢者がん診療に関するガイドラインを踏まえた治療・ケアの提供の推進

令和7年度の実績及び今後の予定（再掲）

【取組実績】

- ・令和7年度現況報告書によって、全てのがん診療連携拠点病院において、高齢者がんに関して、併存症の治療との両立が図れるよう、関係する診療科と連携する体制が確保されていることを確認した。
- ・また、全てのがん診療連携拠点病院において、高齢者がん患者の意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしていることも確認した。

【今後の予定】

- ・同様の取組を今後も継続していく。

これらを支える基盤の整備

(1) がんに関する知識の普及啓発

○がんに関する知識の普及啓発の推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ イベントでのがん検診受診啓発や、インターネットを活用したがん検診受診啓発、緩和ケアとアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の普及啓発を目的とした県民公開講座、新聞広告、9月のがん征圧月間における関係機関のがんに関する取組に際してデータの提供等を通じたがんに関する知識の普及啓発に取り組んだ。

【今後の予定】

- ・ 今後も様々な機会を捉え、各種広告媒体を活用したがんに関する知識の普及啓発に取り組む。

(2) 学校におけるがん教育

○学校におけるがん教育の更なる推進

令和7年度の実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ 熊本県の令和6年度のがん教育実施率は、小学校93.3%、中学校99.4%、高等学校が100%、特別支援学校で76.2%であった。
- ・ がん教育を実施した学校のうち、外部講師を活用した学校の割合は、小学校14.8%、中学校6.4%、高等学校11.5%であった。
- ・ 令和7年6月に実施した健康教育担当者研修会において、がん教育についての説明を行い、その重要性を各学校に周知した（悉皆研修（原則として全校参加の研修会）で、参加者は、450人程度）。
- ・ 県では外部講師派遣リスト（外部講師の派遣が可能な団体の一覧）を県ホームページにて公開している。

【今後の予定】

- ・ 引き続き、健康づくり推進課と連携を図り、外部講師派遣リストを更新し、県ホームページで公開する。

【参考資料】

外部講師派遣リスト団体数内訳（27団体）

医療機関	市町村・保健所	患者団体
17	8	2

(3) がん登録の利活用の推進

○がん登録データの精度向上と利活用の推進

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「がん登録等の推進に関する法律」に基づき、全病院及び県指定診療所からのがん罹患情報の提出が義務化された。現在、201の病院と52の指定診療所が届出対象医療機関。・ 令和7年12月に書面にてがん登録審議会を開催し、本県におけるがんの罹患統計をまとめた「熊本県のがん登録」の作成等、計1件のがん登録情報の提供申請の可否等について審議した。
<p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 診療所に対して、指定診療所登録への働きかけを行い、がん登録データの精度向上と利活用を推進する。

(4) 患者・県民参画の推進

○患者・県民参画の維持・向上

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 熊本県がん対策推進計画に基づき、がん患者等を代表する2団体を含む各団体で構成されているがん対策推進会議において、がん対策の進行管理、がん対策の推進に関する協議を行っている。
<p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 今後も引き続き県民本位のがん対策を推進するため、患者・県民参画体制の維持・向上に取り組む。

(5) くまもとメディカルネットワークを活用したデジタル化の推進

令和7年度の実績及び今後の予定
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none">・ スマートフォンからくまもとメディカルネットワーク（KMN）への参加手続きが可能となるアプリ「マイヘルス net」の運用を令和6年7月に開始し、リーフレット及び広報用動画を用いて周知を行っている。・ KMNの運用主体である熊本県医師会や熊本大学病院等と連携して、関係施設に働きかけを行うなど、施設の加入促進に取り組んでいる。・ 令和7年10月末時点で、163,029人の県民と1,001の関係施設が参加。
<p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 引き続き、熊本県医師会や熊本大学病院等と連携して、県民及び関係施設の更なる参加を促進する。

感染症のまん延や災害等を見据えたがん対策

(1) 感染症のまん延を見据えたがん対策

令和7年度の取組実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ 令和7年度現況報告書によって、全てのがん診療連携拠点病院において、感染症の流行等により自院の診療状況に変化が生じた場合には、速やかに情報公開を行うよう努めているとともに、感染症のまん延等不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための計画（BCP）を策定していることを確認した。

【今後の予定】

- ・ 同様の取組を今後も継続していく。

(2) 災害等を見据えたがん対策

令和7年度の取組実績及び今後の予定

【取組実績】

- ・ 令和7年度現況報告書によって、全てのがん診療連携拠点病院において、大規模災害等により自院の診療状況に変化が生じた場合には、速やかに情報公開を行うよう努めているとともに、大規模災害等不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための計画（BCP）を策定していることを確認した。
- ・ 災害時における情報窓口としてのがん相談支援センターの活用を周知するため、がん相談支援センターにおいて、患者やその家族に裏面に災害時におけるセンターの活用を明記した「がん相談支援センター紹介カード」を配布した。

【今後の予定】

- ・ 同様の取組を今後も継続していく。